

## —京都議定書は人類最大最後の偽定書!!!、温暖化絶滅危機

への「警戒心を無」にする為の世界史的規模詐欺!!!—

世界各国トップ責任者が会合、一級科学者報告 IPCC 資料の上に議論された先進的危機回避会議、多くが信頼して任せたの気持ちになろう！、だが事実はまさかの逆なのだ!!!、

真相の一つは海洋陸上植物自然吸収能力の倍になる人為排出CO<sub>2</sub>と温度上昇予測数字、もう一つは専門家でなくても判る世界各地での海面上昇と土地水没進行、異常気象と社会農商工生活基盤大破壊の災害多数増大化傾向、今その証拠を以下に提示しよう!!。事実至極は人類文明史上最大試練、「臨戦態勢に大転換」が無ければ近時絶滅へ!!!。

08/1/13~17, 18.

**[1]：現状予測解析技術は不完全、測定された結果事実はCPU予測を常に上回る!!!**

ともかく京都議定書の数字は桁違いにでたらめ過ぎる！。本サイトで年末掲示した[ジュセリーノ師\(p6\)](#)指摘の「京都議定書は焼け石に水」は既に科学者側からも指弾されてる。[東大生産技術研=山本良一教授](#)も全く同じ発言を 1996 年にしてる。[農業情報研究所](#)も 2050 年半減での IPCC 報告に否定趣旨を述べてる。地球環境生命性概念=ガイア提唱のラブロック、物理学者ポールデイビス等に至っては既に手遅れとまで言う科学者も少数(?)ながら居る。いずれにしても真偽は正確な数字でしか判断できない。

印象的発言は 2002 年から未曾有の旱魃に見舞われ。砂漠化した畑に動物の死骸が散見すると言うあの穀倉国オーストラリアの「[ウエザーメイカーズ](#)」著者のティム・フラナリ博士[見解](#)のによれば、現状天候予測解析は不完全で未知の正帰還系メカニズム(PFL)多数があり、その結果、現実には測定された気候変動は常にCPU予測値を上回ると言う指摘だ。2005 年 IPCC 「技術要約」報告冒頭でも「解析技術の不確実性がある以下が」が残る事を公言してる。\*雲、氷圏、海洋、土地利用、気候と生態化学系との結合。

☞：現筆者は気候科学の専門知識が無い。そこで本項目では筆者利用可能&読者了解可能な物理学範囲では数字議論をやるが、それは以外はサイト検索で危急必要かつ、信頼できる?と判断した内容を要約報告する立場を取る。温暖化ガス蓄積増大と温度上昇の関係は短期間では誰もが直線推定ができるが、困難な点は温度上昇とその下で発生する破綻現象の定量推定!、「それ以上の本質的困難は我々の認識低度と虚栄-欲深さかもしれない!!!」。

## —気候系での正帰還系メカニズム(PFL)—

温度上昇が更に温度上昇を誘導する結果、仮に放置しても自走的に温度上昇進行が発生してしまう最も危惧される物理化学生物学的な複合機構、

- (1) 主要因として海水地表温度上昇に付随する水蒸気H<sub>2</sub>OにはCO<sub>2</sub>同様の温暖化ガス効果がある。当然温度上昇は水蒸気濃度増大をもたらしてる事が観測されてる。但し雲大量発生は太陽光入射阻止で温度低下に負帰還作用。だが農業被害等に、
- (2) **海洋の吸収能力規模は絶大!**、また海水CO<sub>2</sub>濃度が濃くなると吸収能率低下と、更に酸化でのプランクトン死滅が重大との指摘もある。[最近の研究](#)では南太平洋での吸収能力低下が指摘されてる。海水温上昇は海洋生態破壊に作用してる。
- (3) 次に重大な**陸上植物吸収能力低下**、大規模な森林伐採や大耕地の旱魃での能力低下がある。南洋森林土壌だが条件次第では何と森林自体が吸収でなくCO<sub>2</sub>排出に機能してる例も科学者から報告されてる。
- (4) 北南極海域と Greenland 氷河の**氷層太陽光反射**が温度上昇融解で大幅に減少してる問題。海域に繋がる氷層大規模融解は海面上昇に激変をもたらす計算が成立する。
- (5) 他に海底中、及びシベリア凍土等の下にも多くあると言うメタン(ハイドレード)、温度上昇では増加に作用する。
- (6) 大気温度上昇に伴う大気運動不安定化進行と大規模旱魃洪水, 台風ハリケン強度増大での社会基盤大規模破壊と緑地破壊は当然ながらCO<sub>2</sub>増大, 陸植物吸収力も弱める。
- (7)

かように正帰還メカニズムは多く、未知と言われるのも妥当な話だろう。

以下の基本は温暖化ガスの{陸上生物+海洋-生物}吸収能力と排出量の不均衡量の是非にある!.

[2]: ともかく京都議定書の数字は桁違いにでたらめ過ぎる!!!

① CO<sub>2</sub> 会計破綻 : 「大気蓄積量増大が削減目標を大きく上回る詐欺!!!」。

京都議定書(1995)では2008年から2012年までの間に先進国全体の温室効果ガス総排出量を1990年時5%削減することを目標。日本削減目標は6%(環境省)。だが必要な削減量は2005年時総排出量72億トン~~を31億トンにせねば~~均衡しない。5%どころか60%でないか!!!。

科学計算では一般に厳密解を得るのはまれ、近似模型, 近似計算するからある程度の誤差は常に伴う。だが常識として一桁違ったら誤差範囲とは言わないはずである。最も京都議定書は例により政治家決済だから、科学者責任とは言いきれない要素もあるが。

(1) CO<sub>2</sub> 総排出量 — {陸上+海洋} 吸収 = 大気蓄積量。

72 億 ton/年 — {9 億 t + 22 億 t}/年 = 41 億 t/年。

☞ : [山本先生](#)は41億tの数字の所を4倍の150億tとも言ってる!

(2) 陸上植物吸収 = 山野森林 + 耕作地 = 14 ± 7 億 t/年 (IPCC3 次報告 (2001 年)).

= 9 ± 0.6 億 t/年 (IPCC4 次報告 (2005 年)).

(3) 海洋植物吸収 = 海水 + 植物性プランクトン = 17 ± 5 億 t/年 (IPCC3 次報告 (2001 年)).

= 22 ± 5 億 t/年 (IPCC4 次報告 (2005 年)).

(4) 地球総吸収量 = 31 億 t/年。 <奇妙にも 3, 4 次では之だけは一致?!>

☞ : [農業情報研究所](#)では海洋は近年減少と言うのに 17→22 で増加?。

(5) CO<sub>2</sub> 総排出量 = 72 ± 3 億 ton/年 (IPCC4 次報告 (2005 年)).

(6) 京都議定書削減量 < 72 × 5% 削減値 = 3.6 億 ton/年。

(7) 過去累積蓄積量 = ? 億 ton

(8) 大気中 CO<sub>2</sub> 濃度 = 産業革命以後上昇値は 280ppm ~ 379ppm (2005)

(9) 過去 10 年平均で毎年 1.9ppm 上昇。過去 10 年の温度上昇 = 0.2 度 C.

出典 ([気象庁 IPCC3 次報告 \(2001 年\)](#)).

出典: [気象庁 IPCC 第 4 次報告和訳 \(2005 年\)](#)).

(10) 留意事項 : <IPCC (政府間気候変動に関するパネル = <http://www.ipcc.ch/index.htm>)>

(a) 気候変動問題の最大基礎資料として [気象庁 IPCC 第 4 次報告和訳](#)がある。

(b) CO<sub>2</sub> 換算総温暖化ガス (GHG) 排出量は世界工業統計からわかるだろう。肝心の

陸上 & 海洋 (生物) CO<sub>2</sub> 吸収総量には ± 誤差があり, それでも確実な事は

総排出 GHG 量は自然吸収量の 2 倍程度にあり, 5% 削減では到底間に合わない事だ。

[農業情報研究所](#)も 2050 年半減での IPCC 報告に否定趣旨を述べてる。

(c) 筆者は IPCC3 次報告 (2001 年) 原著は見えてない。

## ②地球大気温度上昇傾向と破滅現象：

PDFのDLに数分掛かりますが IPCC 4次報告の p37=[地球平均温度実測値\(~2005\)](#)とその後の推測値を見て下さい。1990~2005 の 15年間で **0.3度上昇**,

(1)温度上昇の定義は世界平均温度での産業革命前時(13.7度?)からの上昇値で  
現在(14.5度)で **0.8度上昇**、

「1.5度(予測 2016)上昇で 100万種絶滅が起こると言う([山本良一教授](#))」。

(2)南北極、グリーンランド等の表層氷解と海面上昇による生存基盤破壊、  
海水の温度膨張係数と海面上昇、

(3)台風ハリケン強度増大×頻発頻度増大と生存社会&生産基盤破壊。

(4)旱魃(乾燥化)と洪水による水-食糧資源破壊。

(5)温暖化による生存圏破壊-生態系危機(伝染病、陸上と海洋生物資源破壊)、

(6)乾燥化での大規模砂漠進行、大規模山火事の世界的発生、

## (2)海面上昇問題の例：

地球大陸全表層の氷層が地球古代史(約 125,000年前)に全面融解していた時代がある。(IPCC 第4次評価報告第一作業部会報告書。[政策決定者向け要約 p11](#))。この時代の地理状況は現在とは異なるが、温度は3~5度高めで海水面は現在より4~6m高いと言う。之は100%破滅状態。産業革命以来の温度上昇は僅かに **0.8度で世界平均海面上昇は20cm**だが、この値で既にベネチアでは水浸しが起こり、太平洋諸国一部住民には移住強制が始まり、バングラデッシュの低地デルタ地帯では破滅的浸水が起きてるのだ。

アフリカ、アジア、オーストラリアでは乾燥化での大規模砂漠化も進行中。他方で欧州中国、南米等では大洪水も。他方、2007年四国では水不足で苦しんだ。今後世界的に水不足が大問題化すると言う指摘が多い。

### [3] : 現実に起きてる破綻兆候現象 :

何も専門家見解によらずともここ近年の日常生活で判る異常気象と以下等の破綻現象多数から誰も察するだろう。以下は簡単に調べられる代表例に過ぎない。

- (1)1998-2007 年は史上最も温暖な 10 年、世界気象機関が報告([参考サイト](#))。
- (2)バングラデッシュの大水没進行、天候大災害([関連参考サイト](#))。
- (3)海面上昇と水没進行太平洋諸島国([関連サイト](#))。  
オランダ、ベネチア、東京 0メートル地帯(水面上昇で館船の橋下通過が困難化)。
- (4)オーストラリア大干ばつ、農業崩壊と離農([関連参考サイト](#).)。  
東アフリカでの大旱魃と食糧危機([参考サイト](#))。
- (5)米国来襲のハリケン強度増加傾向<p6 の表 1 に注目>([関連参考サイト](#))。  
史上最強ハリケン. カトリーナ=  
([http://www.bosai.go.jp/library/pub/natural\\_disaster/natural\\_disaster.htm](http://www.bosai.go.jp/library/pub/natural_disaster/natural_disaster.htm))。
- (6)1980 年以降の大規模洪水、台風ハリケン([関連参考サイト p5](#))。
- (7)欧州猛暑と旱魃([関連参考サイト](#))、
  
- (8)気象庁の[アジア](#)と[世界各地](#)の異常気象被災報告。  
アジアの被災についてはニュースが少ない. 乾燥化での[大規模山火事]はCO2 吸収消滅且つ、増大にも作用、
- (9)食糧危機に直結問題のアフリカ、アジア等での([砂漠化大規模進行](#)、[その2](#))もある。
- (10)エイズにしても、悪性鳥インフルエンザにしても近年に至って世界的奇病発生があいつぐ、気候問題と直接関係づけられないが、温暖化は熱帯伝染病発生に作用する。
- (11)
- (12)
- (13)

後書き : 米国 Tカボティのノンフィクション犯罪小説に「冷血」があるが、死刑台に上る前に最後の豪華なご馳走が出る一幕がある。現代先進国人はそれかもしれない。2050 年にCO2 半減と言う IPCC 約束は嘘でないかもしれない。人類はこぞって「一つに未曾有の大団結行動」がなければ Jucelino 師予言通り、2043 年に人類 80%絶滅になるのかも知れない。

☞: 今後新規知見や誤箇所発見あらば随時追加修正予定。名企業事業所、学校等も“自身”で納得いく情報収集を実施、政治経済-事業対策マニュアルを作る事が推奨できます。気候科学所見では既に結論は出てるでしょう。税金NHK等主要マスコミ基調はここまでだんまりですから当てにしない、最終的には対策政治決断に向かう事になります。

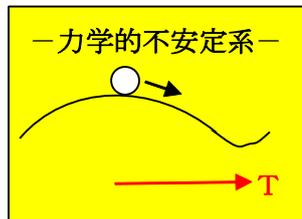
**[4] : 指数関数上昇(バブル)の結末=急峻な大破綻 :**

イタリア人等指導による人類初の経済成長警告書=THE LIMIT TO GROWTH「成長の限界=ローマクラブ」(正確な訳は成長の制限!!)報告(1972)の冒頭に指数関数増大傾向は必ず何時か急峻にして制御不能な破綻を見ると言う温かい啓示がある。地球歴史時間で見れば過去にも気候地理的大変動があるのは普通の事実だが、之らは何万年のスケールで緩やかに起きた。ところが近年の温度上昇、CO<sub>2</sub>濃度上昇等の気候海面上昇等の変化は「地球歴史時間スケールで見れば余りに急峻」な指数関数的増大傾向を示し、これは鰻上り、鼠算的増大、あるいはバブルといえど誰もが察するだろう。この上昇は加速度的であり、直線上昇でない事に格段の留意が必要と一般論として言える。このスピードでは一般生物も人間すらも適応できない破滅が起きてる。この上昇は必ず何らかの破綻点を通り越す<無限増大など本来あり得ず、しかも力学論的に指数関数増大や減少と言うのは**不安定系特徴**だから、軟着陸が期待できない?!>。別名**引き換えし不可能点**。ここまでの議論ではこの推論に説得力がないのが残念だが、本論趣旨はこの問題一点の提示にある。IPCC 報告では仮に完全CO<sub>2</sub>放出停止でも暫くは温度上昇が止まらないとの指摘(不安定系)が反復して見られる事に注意!!。

補足解説1 : 力学的安定性を理解する簡単なボール運動模型 :



お皿の底を中心に  
振動する!  
後戻りする。



頂点から一歩外れると  
と一気**加速**で落下!  
**後戻りしない。**  
**後戻りには面を...**

補足解説2 : 指数関数増大系 :

時間  $t$  の関数量  $= N(t)$  があると、その一秒あたりの増大速度は、

増大速度  $= \langle N(t + \Delta t) - N(t) \rangle / \Delta t = \Delta N / \Delta t = dN/dt$ 。

例えば仮想無死ネズミ集団が単位時間に増殖する速度はネズミ総数  $N$  に比例するだろう。

$dN(t)/dt = k N(t)$ 。  $k =$  比例定数. この微分方程式解として  $N(t) = N(0) \exp[kt]$ 。

$y = e^x$ 。

$x = 0, y = 1.0$

$x = 1, y = 2.72$

$x = 2, y = 7.39$

$x = 3, y = 20.1$

$x = 10, y = 22026.5$

